ゲンゴロウ

Cybister japonicus Sharp

コウチュウ目ゲンゴロウ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類
国カテゴリー	準絶滅危惧

選定理由

かつては普通種であったが、全国的に減少傾向が著しい。北日本では比較的残存しているが、南日本の太平洋側では各県の生息地数は数箇所である。県内でも2000年以降の個体数の減少が著しい。

形　　態

本土では最大のゲンゴロウ類で、体長34～42㎜。体型は卵形でやや扁平。背面は緑色～黒褐色で、前胸背板と上翅の側縁は黄褐色。体下面は黄～黄褐色で、腹部中央、各腹節前・後縁は黒色。脚は黄褐色～赤褐色。オスの前跗節の基部３節は吸盤状で後脚は遊泳脚である。幼虫は約70㎜のいも虫状。

国内分布

北海道、本州、四国、九州に広く分布する。

県内分布

金沢市および能登北部の丘陵部に分布する。

生　　態

成虫は４月頃から活動を開始し、５、６月頃に水草の茎に産卵する。幼虫は６～８月に出現し水生昆虫やオタマジャクシを捕食する。３齢幼虫は岸辺の土中で蛹化する。新成虫は８～９月に出現する。成虫は灯火にも飛来し、約２㎞は移動する。11月頃から水中で越冬する。成虫も肉食で、寿命は約３年。

生息地の条件

平野部～丘陵部の、ヒルムシロやオモダカなどの水生植物が豊富な、比較的水深のある池沼やため池、水田、放棄水田、水田脇の水たまり、緩やかな流れの水路などに生息する。

生存の危機

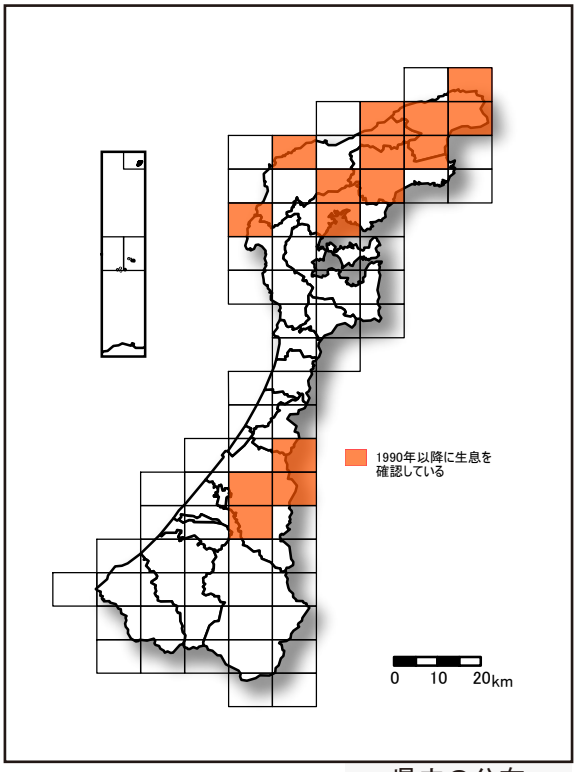
池沼の開発による消失、ため池の管理放棄や護岸工事、農薬使用、圃場整備による乾田化、放棄水田の植生遷移、外来種の侵入やコイの導入、採集圧が大きな脅威となっている。金沢市や珠洲市では、アメリカザリガニやオオクチバスの駆除が最重要である。生息に適した池の創出が開始されている。（A, B, C）

参考文献

市川憲平 2004. 放棄田ビオトープによる里の自然再生とタガメやその他の水生動物の定着. ホシザキグリーン財団研究報告, （７）：137-150.

永幡嘉之 2007. ひとつのため池をとりまく問題 ―ゲンゴロウ類の生息地を維持するには―. 遺伝, 61（３）：48-53.

写真提供者：小幡英典



県内の分布